



地方独立行政法人
埼玉県立病院機構

年報

2024 第42号



埼玉県立小児医療センター



埼玉県立小児医療センター病院の概要

(令和6年4月1日現在)

所在地	埼玉県さいたま中央区新都心1-2 TEL 048(601)2200(代表)
敷地面積	10,031.17㎡
構造	鉄筋コンクリート地下1階/地上13階建て
延べ面積	65,447.69㎡(付加機能 8,745.51㎡含む)
病床数	一般病床 316床
診療科目	総合診療科 新生児科 代謝・内分泌科 消化器・肝臓科 腎臓科 感染免疫・アレルギー科 血液・腫瘍科 遺伝科 循環器科 神経科 精神科 小児外科 移植外科 心臓血管外科 脳神経外科 整形外科 形成外科 泌尿器科 耳鼻咽喉科 眼科 皮膚科 小児歯科 集中治療科 救急診療科 外傷診療科 麻酔科 リハビリテーション科 放射線科 病理診断科 臨床検査科
紹介等	医師による紹介制
保健発達部	
保健外来	予防接種外来 国際保健外来 心臓検診外来 生活アレルギー外来 遺伝外来 精神保健外来
発達外来	アセスメント外来 発達外来 装具診外来
紹介等	病院、診療所、保健所、学校などからの紹介制

B1

STAFF



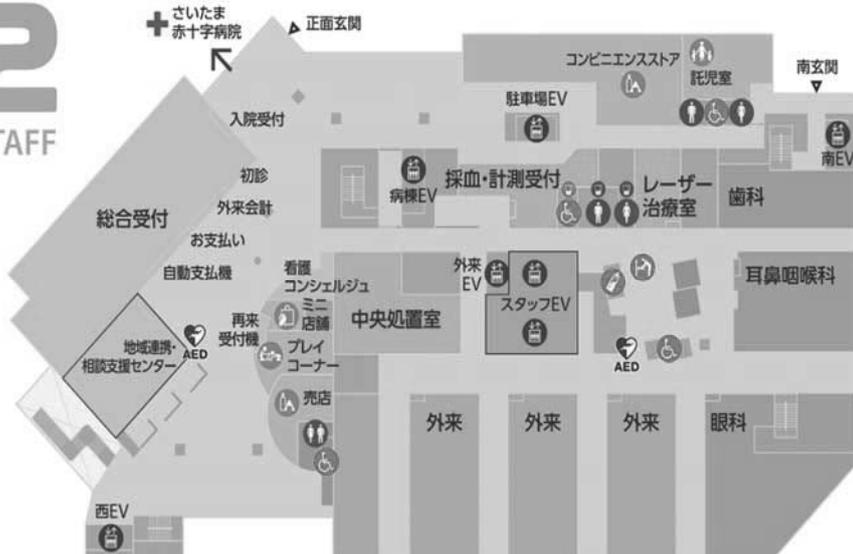
1

STAFF



2

STAFF





6 STAFF



7 STAFF

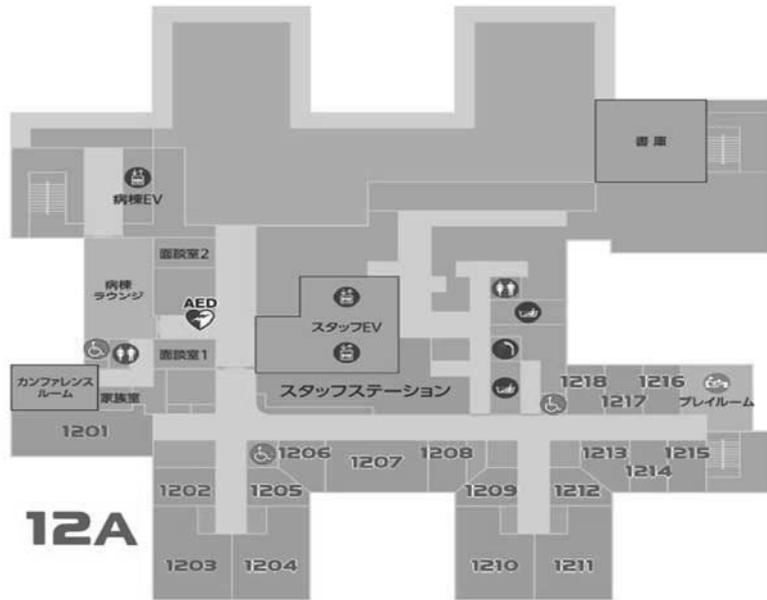


8 STAFF



12

STAFF



12A

はじめに

病院長 岡 明

令和6年度は、県の直轄から地方独立行政法人埼玉県立病院機構へ組織移管4年目となります。今年度も引き続き小児の高度専門医療を行い、県民の皆様へ安全・安心かつ良質な医療を提供していくことを目標として取り組んで参りました。

令和6年度を振り返ると、新型コロナウイルス感染症は日常の感染症となり、子どもたちの生活も普通の状態に戻りました。前年度の令和5年度は、それまでの感染対策で流行が抑えられてきた他の病原体による感染症が子どもたちの間で大流行し、新型コロナ禍による子どもたちの免疫状態への影響が感じられました。令和6年度はインフルエンザの流行は例年以上でしたが、全体として感染症の状況は落ち着いてきた感がありました。当センターは、高度専門医療、周産期医療、そして三次救急医療を提供することを目標に掲げておりますが、定常の状態に戻った小児医療の専門医療に取り組むことができ、二次医療機関の御協力のおかげで、当センターに期待されている役割を果たすことができたかと思えます。

我が国では少子化が大きな問題となっておりますが、県内でも少子化が進行しております。少子化が進行することにより、県内の小児医療の提供体制の現状維持が困難になることも予想され、小児医療の継続性について懸念される所です。例えば令和6年度の当センターの新生児医療の実績について見てみますと、早産や低出生体重で生まれた新生児の受け入れ数の減少傾向というのは見られておらず、県内での新生児医療の必要性は継続しております。こうした医療需要に対応しながら今後も少子化による影響を注視していくことが重要です。少子化の中で生まれてきたかけがえない子どもたちを大事に成育していくことのために、当センターは県内の小児医療の最後の砦としての役割を継続していきたいと考えております。

令和6年度の診療実績につきましては、新型コロナウイルスの第5類移行後に大幅増をみた令和5年度からわずかに患者数が減少し、入院延べ患者数は98,113人で、前年度より1,030人(1.0%)減、病床利用率は85.1%で、前年度より0.6%減となっております。平均在院日数は11.8日で、前年度より0.5日減となっております。手術件数は4,078件で、前年度より163件(4.2%)増加しております。入院一人当たりの稼働額単価は112,990円で、前年度より6,652円(6.3%)増となりました。外来診療においては、新患者数が14,174人と、前年度に比べて209人(-1.5%)減少し、外来延べ患者数は143,883人で、前年度に比べて592人(-0.4%)減少しました。総じて令和6年度も当センターに対する小児高度・急性期医療のご要請に対応することができたと考えております。以上、埼玉県立小児医療センター年報(2024年度版)をお届けするにあたり、当センターの概要をご報告申し上げます。

独立行政法人化後も、職員一同一丸となって、安心・安全な医療、高度医療、地域と連携した医療を目指して参ります。そのためには、近隣の医療機関、行政機関、地域住民の皆様など数多くの関係各位のご協力ご指導が不可欠です。これからもご支援をよろしくお願い申し上げます。

小児医療センター—歴代幹部職員

	センター長		病院長	副病院長	事務局長	看護部長
1983	荻野淑郎		森 彪	河野三郎	小笠原昭雄	加藤ミチ子
1984	荻野淑郎		森 彪	河野三郎	浜野信雄	加藤ミチ子
1985	荻野淑郎		森 彪	河野三郎	松井雅雄	加藤ミチ子
	総長		病院長	副病院長	事務局長	看護部長
1986	荻野淑郎		森 彪	河野三郎	松井雅雄	加藤ミチ子
1987	荻野淑郎		森 彪	河野三郎	並木武夫	加藤ミチ子
1988	荻野淑郎		森 彪	河野三郎	並木武夫	加藤ミチ子
1989	荻野淑郎		森 彪	河野三郎	古橋司郎	加藤ミチ子
1990	森 彪		河野三郎	山本圭子、赤司俊二	熊倉 勲	加藤ミチ子
1991	森 彪		河野三郎	山本圭子、赤司俊二	大沢 彰	古橋美智子
1992	森 彪		河野三郎	山本圭子、赤司俊二	関根隆俊	古橋美智子
1993	森 彪		河野三郎	山本圭子、赤司俊二	関根隆俊	古橋美智子
	総長	副総長	病院長	副病院長	事務局長	看護部長
1994	河野三郎	山本圭子	赤司俊二		関根隆俊	古橋美智子
1995	河野三郎	山本圭子	赤司俊二	城 宏輔	井上岩三	牧 満子
1996	河野三郎	山本圭子	赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人	井上岩三	牧 満子
1997	植田哲夫	山本圭子	赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人、今泉了彦	井上岩三	牧 満子
1998	植田哲夫	山本圭子	赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人、今泉了彦	石田三郎	牧 満子
1999	植田哲夫	山本圭子	赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人、今泉了彦	石田三郎	近藤よし子
2000	植田哲夫	山本圭子	赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人、今泉了彦	深谷榮作	近藤よし子
	センター長	参事	診療局長	診療局副局長	事務局長	看護部長
2001	植田哲夫	山本圭子	赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人、今泉了彦	深谷榮作	上原敦子
		参事	病院長	副病院長	事務局長	看護部長
2002		山本圭子	赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人、今泉了彦	北村富士雄	上原敦子
2003		山本圭子	赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人	北村富士雄	野中甲子
2004			赤司俊二	城 宏輔、佐藤雅人、野中甲子	渡辺春男	野中甲子（兼）
2005			城 宏輔	佐藤雅人、大野 勉、花田良二、野中甲子	渡辺春男	野中甲子（兼）
2006			城 宏輔	大野 勉、花田良二、中村 譲、野中甲子	陣内 博	野中甲子（兼）
2007			城 宏輔	花田良二、中村 譲、西本 博	陣内 博	柏浦恵子
2008			城 宏輔	花田良二、中村 譲、西本 博	堀越久夫	柏浦恵子
2009			城 宏輔	花田良二、中村 譲、西本 博	堀越久夫	小木曾國子
2010			中村 譲	花田良二、西本 博、大石 勉	堀越久夫	小木曾國子
2011			中村 譲	花田良二、西本 博、大石 勉	北村芳之	小木曾國子
2012			中村 譲	花田良二、西本 博、大石 勉、西ヶ谷正子	北村芳之	西ヶ谷正子（兼）
2013			中村 譲	花田良二、西本 博、大石 勉、西ヶ谷正子	笠原 実	西ヶ谷正子（兼）
2014			中村 譲	花田良二、小川 潔	笠原 実	黒田京子
2015			岩中 督	花田良二、小川 潔	森 美秀	黒田京子
2016			岩中 督	花田良二、小川 潔、望月 弘	森 美秀	黒田京子
2017			小川 潔	望月 弘、渡邊彰二	阿部 隆	久保良子
2018			小川 潔	望月 弘、渡邊彰二、小熊栄二	阿部 隆	久保良子
2019			小川 潔	望月 弘、渡邊彰二、小熊栄二、黒田京子	加藤 孝之	黒田京子（兼）
2020			岡 明	望月 弘、渡邊彰二、小熊栄二	加藤 孝之	中田尚子
2021			岡 明	渡邊彰二、小熊栄二、浜野晋一郎、中田尚子	千野 正弘	中田尚子（兼）
2022			岡 明	渡邊彰二、小熊栄二、浜野晋一郎、中田尚子	千野 正弘	中田尚子（兼）
2023			岡 明	渡邊彰二、小熊栄二、浜野晋一郎、中田尚子	飯澤 真人	中田尚子（兼）
2024			岡 明	渡邊彰二、小熊栄二、浜野晋一郎、中田尚子	飯澤 真人	中田尚子（兼）

埼玉県立小児医療センターの理念

For the future, for the children

こどもたちの未来は私たちの未来

埼玉県立小児医療センターの基本方針

1. 質が高く、信頼される医療を行います。

根拠に基づいた高度で専門的な医療を行います。
地域医療機関での対応が困難な医療を行います。
地域が安心できる小児救急医療を行います。
安全性を優先した医療を行います。

2. 地域との連携のもと小児保健、発達支援を推進します。

子どもたちの健康増進、病気の予防、早期発見並びに発達支援に取り組みます。
地域の医療、保健ならびに療育機関への支援、情報提供を行います。
小児医療、保健に携わるスタッフの育成を支援します。

3. 発育、発達にあわせた良質な環境を提供します。

子どもの生活の場としての良質な医療環境を保障します。
子どもの年齢に応じた遊びや教育の機会(病弱特別支援学校の併設)を確保します。
ご家族のための宿泊を支援します。

4. 子どもの人権を尊重します。

子どもの権利を平等に尊重します。
十分な情報提供と説明を行い、同意のもとでの医療を行います。
身体的にも、精神的にも子どもに負担の少ない医療を心がけます。
入院期間を短縮し、面会時間をできるだけ多くします。
個人情報を守られる権利、診療内容を知る権利(診療録開示)、
他の医療機関の意見を求める権利(セカンドオピニオン)を保障します。

目 次

総 括 編

第1章 沿 革

1 小児医療センター建設までの経緯	1
2 小児医療センター開院から今日まで	1
3 医療法に定める届出承認事項	4
4 健康保険法に定める届出事項（施設基準等）	9
5 専門医教育施設等の認定（更新状況）	18

第2章 施 設

1 敷地及び建物	21
2 附属設備	21
3 主要備品	23
4 小児医療センター医療情報システム	26

第3章 組織・運営

1 機 構	28
2 病棟構成	30
3 診療制度	30
4 会計制度	30
5 運営協議会	31
6 地域医療との連携	31
7 センター内会議及び委員会	34
8 特別支援学校との連携	35
9 地域医療教育センター	35

統 計 編

第1章 診療状況

1 総 括	37
2 外 来	41
3 入 院	43
4 救 急	46
5 手 術	47
6 放射線	48

7 臨床検査	49
8 病 理	50
9 薬 剤	51
10 栄 養	54
11 臨床工学	55

第2章 経営状況

1 経営分析に関する調	56
2 経営的収入及び支出	56
3 資本的収入及び支出	57
4 貸借対照表	57

業 務 編

第1章 診療各科

<入院患者疾患別内訳>	59
<内科系診療部門>	
総合診療科	61
新生児科	64
代謝・内分泌科	66
消化器・肝臓科	67
腎臓科	69
感染免疫・アレルギー科	70
血液・腫瘍科	73
遺伝科	76
循環器科	79
神経科	81
精神科	85
<外科系診療部門>	
小児外科	86
移植外科	88
心臓血管外科	90
脳神経外科	92
整形外科・リハビリテーション科	95

形成外科	96
泌尿器科	98
耳鼻咽喉科	101
眼科	103
皮膚科	105
小児歯科	106
＜中央診療部門＞	
集中治療科	108
救急診療科	108
外傷診療科	108
麻酔科	113
放射線科	115
病理診断科	117
臨床研究部	119
第2章 診療技術	
1 放射線技術部門	121
2 臨床検査部門	123
3 薬剤部門	125
4 栄養部門	128
5 臨床工学部門	129
第3章 看護	130
第4章 地域連携・相談支援センター	149
第5章 病歴	155
第6章 医療安全管理室	156
第7章 TQM推進室	161
第8章 臨床研修委員会	163
第9章 小児虐待対応チーム (Child Abuse Action Team)	164
第10章 栄養サポートチーム (Nutrition Support Team ; NST)	167
第11章 呼吸療法サポートチーム (Respiratory care Support Team ; RST)	168
第12章 感染対策チーム (Infection Control Team ; ICT)	169
第13章 抗菌薬適正使用支援チーム (Antimicrobial Stewardship Team : AST)	177
第14章 治験管理室	180
第15章 図書	183

保健発達部門編

第1章	概要・機能	185
第2章	小児保健業務	189
1	地域保健業務	189
2	保健教育活動	190
3	保健予防業務	191
第3章	外来業務	193
1	総括	193
2	保健外来	194
3	発達外来	199
4	多職種特別外来	201
5	コメディカル業務	202

業績編

第1章	学会発表及び講演	209
第2章	誌上発表	244
第3章	学会・団体等からの表彰	257
第4章	受託研究	258
第5章	他機関との共同研究	260
第6章	委員会（プロジェクト等）の役職	265
第7章	院内研究費による研究	278
第8章	クリニカルカンファレンス記録	279

トピックス編

1	表彰	283
2	ボランティア活動	283
3	院内保育	286